

与謝野町公共施設白書

施設カテゴリー編



保健センター

20 保健センター

その1 施設の概要

保健センターは旧町で一つずつ整備され、新町に引き継ぎましたが、野田川保健センターは用途変更をしたため、現在は2つとなっています。加悦地域の保健センターである元気館（加悦庁舎に併設）と岩滝保健センターです。なお、元気館は本来1階部分のことを指し、2階の会議室等の部分は農村環境改善センターですが、本白書では2階部分も含めて元気館として取り扱います。

【保健センター施設一覧】

施設名	所在地	面積 (㎡)		建築年	運営形態
		敷地	延床		
元気館 (2階含む)	加悦204番地	-	1,201.0㎡	H8	直営
岩滝保健センター	岩滝2046番地	1,151.9㎡	800.8㎡	H14	直営
合計		1,151.9㎡	2,001.8㎡		

【施設位置図】



※元気館は加悦庁舎に併設され、岩滝保健センターも与謝野町役場の隣に配置されています。旧野田川町の保健センターは障害者グループホームに用途変更しています（「その他福祉施設」参照）。

その2 施設の物理的状況

① 老朽化の状況

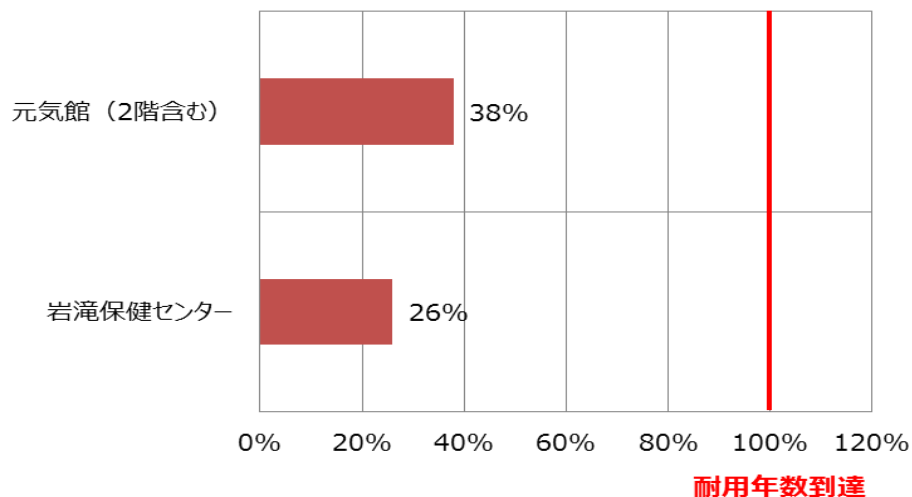
元気館、岩滝保健センターともに平成になってからの建物で、耐震性も備えた施設です。

【保健センター施設老朽化一覧】

施設名	構造	老朽化状況			耐震性
		建築年	耐用年数到達	老朽化率	
元気館（2階含む）	鉄筋コンクリート造2階建	H8	H58	38%	有
岩滝保健センター	鉄筋コンクリート造2階建	H14	H64	26%	有

※老朽化率は（経過年数/耐用年数）で算出しています。100%以上は耐用年数超過となります。

※耐用年数は鉄筋コンクリート造は50年を想定しています。



② バリアフリー化の状況

ほぼバリアフリー化に対応していますが、元気館にはエレベーターが設置されていないため、併設している与謝野町役場加悦庁舎のエレベーターを利用しています。

【保健センター施設バリアフリー化状況】

施設名	多目的トイレ	スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	エレベーター	その他
元気館（2階含む）	○	○	○	○	○	-	
岩滝保健センター	○	○	○	○	○	○	

※「○…設置済」、「-…未設置」を表しています。

③ 防災に関する状況

元気館、岩滝保健センターともに避難所指定されていますが、元気館は地震のみとなっています。

また、元気館は指定警戒区域内に位置しています。

【保健センター施設防災状況】

施設名	避難所指定		警戒区域の指定		
	水害	地震	浸水想定区域	土砂災害（特別）警戒区域	
				急傾斜地の崩壊	土石流
元気館（2階含む）	-	○	0.5～3.0m未満	-	-
岩滝保健センター	○	○	-	-	-

その3 施設の利用状況

主に、各種健診や保健事業で利用しています。町民のみなさんが利用しやすいように、同じ事業でも曜日をつけてそれぞれ元気館、岩滝保健センターで行っています。

また、どちらの施設も各種会議等で利用する場合があります（下図では、保健センターとしての利用者数・件数を挙げています。会議等での利用分は除いています）。

① 利用件数の状況

【保健センター施設利用件数推移】

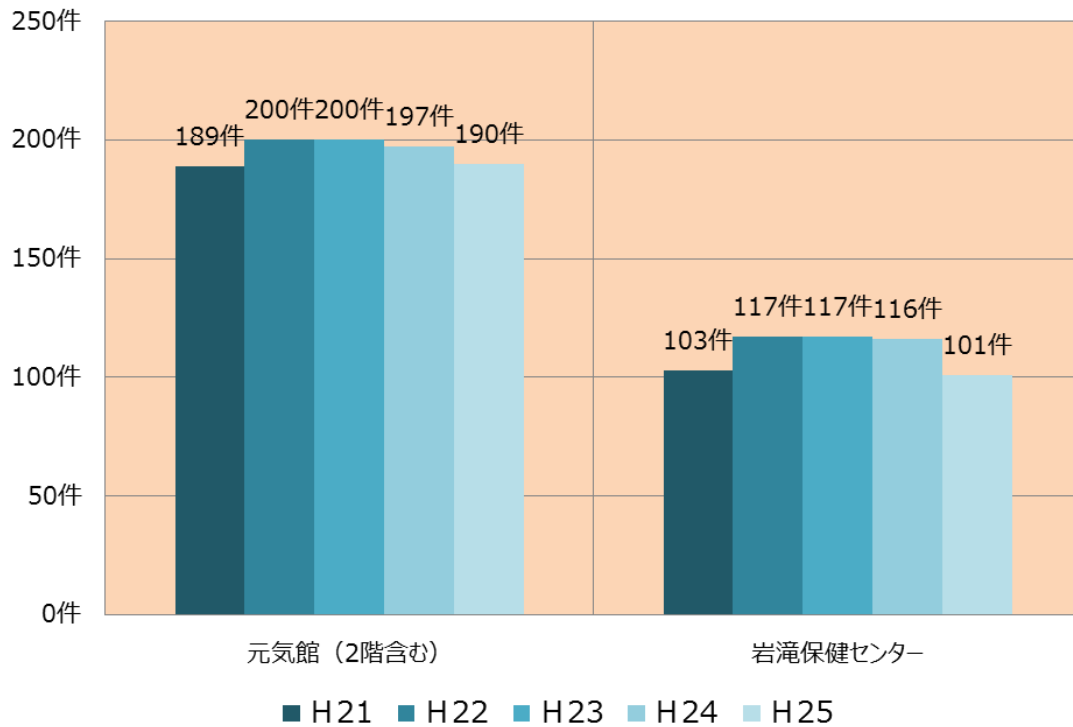
施設名	利用件数				
	H21	H22	H23	H24	H25
元気館（2階含む）	189件	200件	200件	197件	190件
岩滝保健センター	103件	117件	117件	116件	101件

② 利用者数の状況

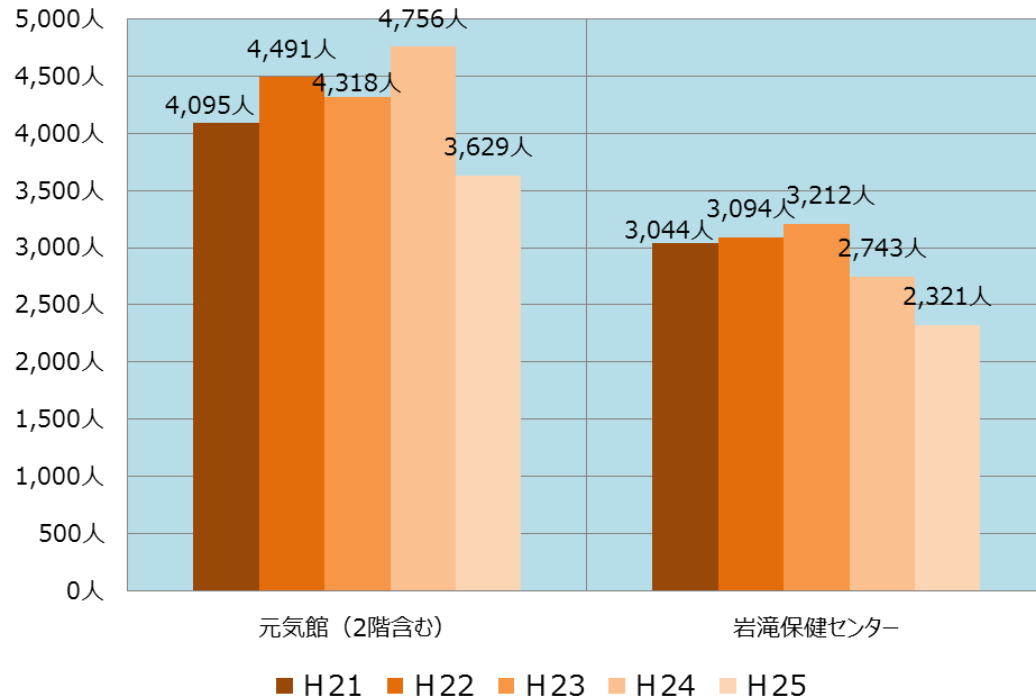
【保健センター施設利用人数推移】

施設名	利用者数				
	H21	H22	H23	H24	H25
元気館（2階含む）	4,095人	4,491人	4,318人	4,756人	3,629人
岩滝保健センター	3,044人	3,094人	3,212人	2,743人	2,321人

【保健センター施設利用件数推移グラフ】



【保健センター施設利用者推移グラフ】



保健センターの利用は元気館がやや多い印象ですが、地域性などにより使い分けているわけではありません。

その4 コスト状況

① 管理・運営コスト

現在の保健センター施設運営に係る管理・運営面での年間コストは以下のとおりです。

元気館については、加悦庁舎と一体として管理コストがかかっているため、施設ごとに管理コストを分けることができません。

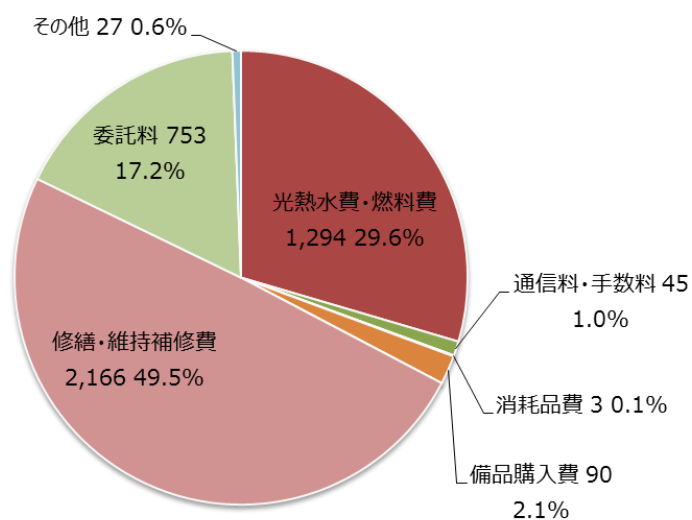
【保健センター施設 管理・運営コスト一覧】

(単位：千円)

項目	元気館（2階含む）	岩滝保健センター	合計	
賃金	加悦庁舎のコストに包含されています。	0	0	
光熱水費・燃料費		1,294	1,294	
通信料・手数料		45	45	
使用料・賃借料		0	0	
消耗品費		3	3	
備品購入費		90	90	
賄・医薬材料費		0	0	
修繕・維持補修費		2,166	2,166	
委託料		753	753	
指定管理料		0	0	
その他		27	27	
合計		0	4,378	4,378

※平成25年度の実績額です。

【保健センター施設管理・運営コスト内訳グラフ① (単位：千円)】



元気館のコストが加悦庁舎に包含されているため岩滝保健センターのみのコストですが、通常の光熱水費に加え、ここでもエレベーターの維持補修にかかるコストが大きくなっています。

② 整備コスト（建替え・解体コスト）

【整備時期の考え方】

☆耐用年数到達年に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆耐用年数経過している建物は5年以内に同等施設（同じ延床面積）に建替え。

☆建替える必要性がないと考えられる建物は耐用年数到達時に解体（耐用年数を既に経過している場合は5年以内に解体）

【コストの考え方】

建替えコストは総務省明示のコストを参考に単価を設定しました。

○建替えコスト・・・36万円/㎡（解体費用も含む：保健・福祉施設）

○解体コスト・・・3万円/㎡

これらの単価に現在の延床面積を乗じて算出したコストは以下のとおりです。

【保健センター施設整備等コスト一覧】

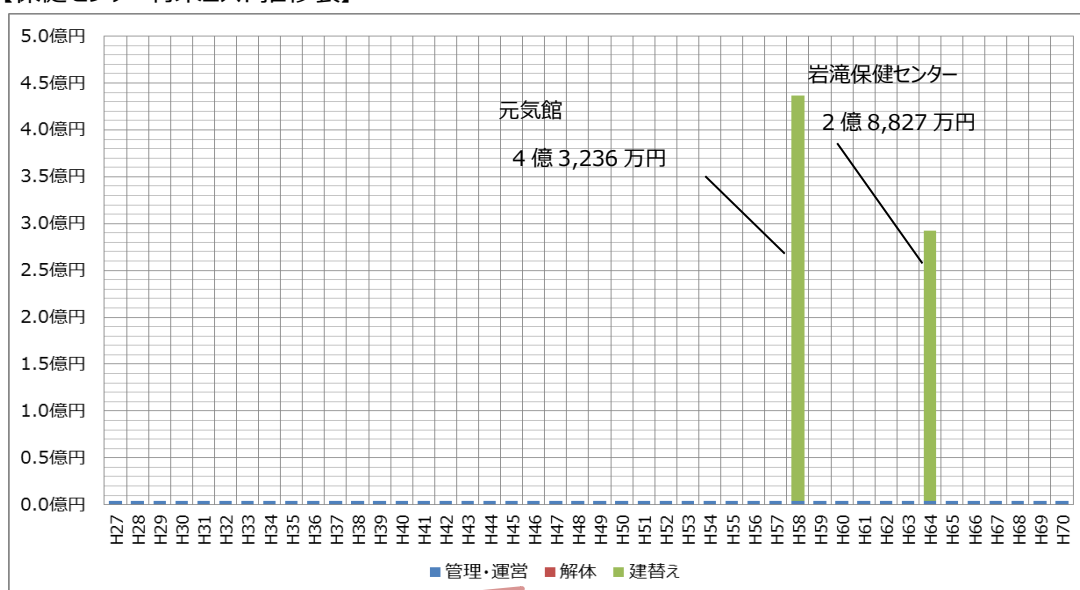
（単位：千円）

施設名	建築年	耐用年数	当初建設費	建替え		解体	
				実施年度	コスト (解体コスト含む)	実施年度	コスト
元気館（2階含む）	H8	50年	183,552	H58	432,360	参考	36,030
岩滝保健センター	H14	50年	194,912	H64	288,270	参考	24,023
				合計	720,630	合計	60,053

※解体コストは参考です。

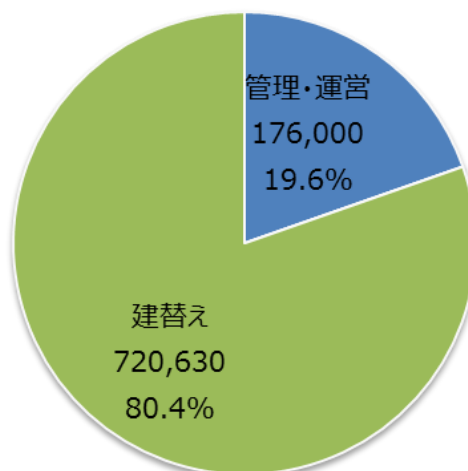
管理・運営コスト（平成25年度実績をベースに横置き）も含めた将来コストの推移は以下の通りです。

【保健センター将来コスト推移表】



コスト総額約9億円（整備7.2億円、解体0億円、管理・運営1.8億円）

【保健センター施設将来コスト内訳グラフ（単位：千円）】



その5 まとめ

1 現状・課題

●利用状況

元気館、岩滝保健センターともに年間の利用者数・件数は概ね横ばいとなっています。各種健診や保健事業を継続して行っており、町民のみなさんの利用も継続してあります。

●老朽化状況

元気館は平成8年度、岩滝保健センターは平成14年度に建築した施設であり、どちらもまだ耐用年数を経過していません。耐震性も確保された施設です。

●コスト状況

管理・運営コストですが、元気館については、加悦庁舎と一体での管理コストになっているため分離が困難ですが、岩滝保健センターについては、施設全体の管理コストは約430万円です。エレベーターの維持管理費が負担になっています。

整備コストですが、このまま施設を利用して耐用年数到来時に建替えた場合、7.2億円かかる見込みです。

●現状のまとめと今後の展望

保健センターは健康診断や各種の保健事業を実施するための施設です。合併後も利用者である町民のみなさんの利便性に配慮して、2つの施設を引き続き活用してきました。合併以来、保健センターが2つ必要なのかについて検討されたことがなく、利用者数・利用件数の把握はしていますが、どの地域からの利用者かという点では集計を取っていないため、施設の統合等も見据える場合、この点についても検討する必要があります。

保健センターは与謝野町役場（岩滝保健センター）と加悦庁舎（元気館）にそれぞれ隣接・併設さ

れた建物です。それぞれ 2 階には会議室を備えており、庁舎と関連して多くの会議が開催されているため、今後の庁舎の在り方にも影響を受けると考えます。

その6 参考事項

保健センターについては、会議等としても利用されています。利用件数は以下のとおりです。岩滝保健センターについては、主に職員会議で利用していますので、件数は計上していません。

施設名	利用件数（単位：人）				
	H21	H22	H23	H24	H25
元気館（2階）	53	43	32	32	6
岩滝保健センター	—	—	—	—	—

また、京都府内の他の合併団体（福知山市・京丹後市・南丹市・木津川市・京丹波町。京都市を除く）について、どの合併団体も合併後に保健センターの統廃合は行っておらず、旧市町単位で保健センターを運用し利用者の利便性を確保しています。